

令和4年度 授業改善推進プラン 中学年

	令和3年度授業改善プランの検証と調査結果の分析 (○はおおむねできていること、△は課題があること)	授業改善策 (○よいところを伸ばすための方策、△課題を解決するための方策)
国語	○互いの考えの相違点や共通点を考えながら話したり、聞いたりする活動に意欲的に取り組むことができる。 ○登場人物の気持ちについて、叙述を基に読み取ることができるようになってきている。 △自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することに課題がある。 △漢字を正しく読んだり書いたりする力に課題が残る。	○意欲的に話すことができる場やテーマを設定する。また、相手意識をもたせる。理由や事例などを挙げて話の中心が明確になるように話をしたり、聞いたりできるように意識させる。 ○物語文の学習で、登場人物の行動や会話など叙述を基に気持ちを考える学習を引き続き行っていく。また、自分の考えをペア、グループ、全体で交流する時間を確保し、伝える力や、共通点や相違点に気を付けて聞く力を伸ばし、自分の考えを広げられるようにする。 △引用の決まりについて理解させる。また、考えや調べたことを紹介する文章を書く際には、時間をしっかり確保し、書き終わった後には、読み返し正しく直す力を付けていく。他教科でもまとめ学習をする際などには、引用の学習と関連付けて書く習慣を付けていく。 △漢字の定着のため、学習の始めにデジタル教科書の漢字カードを使って漢字を確認したり、書く時間を設けて、漢字を継続的に学習したりする環境を作る。また、小テストを行い、漢字を正しく書くことを意識させ、学力向上へつなげる。
社会	○資料に着目して、事実を的確に読み取っている。 △地域の安全を守るための活動や地域の産業と消費生活の様子について理解について課題がある。 △地図記号や都道府県について定着していない。	○資料を読み取り、読み取ったことを表現させる活動を多く取り入れていく。また、授業の終わりに、その時間に分かったことについて自分の考えを書く時間を作り、考察し、表現する機会を増やしていく。 △ICTを活用したり教員が取材した材料をもとにしたりすることで、課題を「自分事」にさせ、児童自らが学習問題を立て、主体的に問題解決できるように教材との出会わせ方を工夫していく。 △都道府県や地図記号については、ビンゴやカルタなどの、楽しく覚えられるような教材を用いたり、慣れ親しむ場を設定したりして、より一層の定着を図る。また、地図帳を活用し都道府県の特色や、地図記号の読み取り等を充実させていく。
算数	○基本的な四則計算や小数・分数の計算などの処理ができる児童の割合が高い。 ○図形の性質や用語についてよく理解している児童が多い。 △あまりのあるわり算や足し算・引き算・かけ算などの桁数が多くなると正答率が下がる。また、3つの数の混合式のような手順が多い計算になったりすると理解度が下がる。 △文章問題の正答率が低い。	○8割以上の児童が四則計算を正しくできているので、さらに上達できるように、100マス計算や反復練習をする。 ○具体物やICTを活用し、図形の特徴を視覚的や感覚的に捉えさせ、図形についての見方や感覚を豊かにする。 △タブレット学習や100マス計算、宿題などを活用して計算問題に取り組む頻度を増やし、基礎・基本の定着と計算力の向上を図る。また、手順を掲示したり、自分の考えを説明し合う活動を取り入れたりとすることで、計算の順序を理解させ、定着を図る。 △授業の中で、文章問題の題意を理解させるために図や絵・表などで問題場面を表し、それを手がかりに自力解決できるようにする。また、その図から立式させることで文章と式の関係の理解を深めさせる。

理科	○「昆虫の育ち方」、「電気の通り道」に対しての関心が高く、観察したり、実験したりする思考と知識を問う問題の理解度が高かった。 △「ゴムや風の力」についての思考を問う問題に対しての正答率を高めていくことが課題である。 △4年生の学習内容では、観察や実験の技能に関する問題の正答率が低いため、正しい方法での観察や実験をし、問題を解決させていくことが課題である。	○動植物を接する機会を多く設定し、生き物に直接触れさせたり、ICT教材を活用して詳しい部分まで視覚的に理解したりできるようにすることで、自然事象に関する関心を高め、知識の定着を図る。 △授業中、話を聞くことや問題文を正しく読むことを繰り返し指導する。予想、実験、結果、考察の流れを意識して授業を進めるとともに、予想したことが実験を通して確かめられるよう、実験・考察の時間を十分に確保する。 △より科学的な思考力をともなう学習内容になるにつれて、直接見たり触ったりする機会が減り、観察や実験の技能が十分に育っていないと考えられる。直接触れる機会を増やすことで、理解を深め、知識をより確かなものにしていく。
体育	○運動に対する意欲は高く、進んで運動に取り組んだり自己のめあてに向かって努力したりする児童が多い。 ○学習カードに記録することにより、努力の成果を認識できた。 △自分の課題を見付けることはできるが、それを解決するための練習方法を考えたり、練習の場を選んだりすることが難しい。 △器械運動（鉄棒）の支持系の技や逆さ感覚を苦手とする児童が多い。	○児童の実態に応じて、ルールや場の設定を工夫し、児童が自ら課題を見付け、解決していけるように計画を立てる。 ○学習を振り返り、気付いたことや考えたことなどを友達と交流し、深める時間を設ける。 △技能ポイントを視覚的に表した学習カードや掲示物等、ICTを活用して試技を撮影したものを見て、自分に合うめあてをもたせる。また、児童のめあてに即した場を設定し、児童が主体的に選択し活動できる環境を作る。また、アドバイスし合う活動を意図的に取り入れる。 △鉄棒のみの練習ではなくマット運動など、床で体を支持したり、回転したりする中で逆さ感覚や支持系の技に慣れていく。また、手本動画を参考にして課題に合った練習を理解できるようにする。
音楽	○音楽の表現活動に意欲的に取り組もうとする児童が多い。 △拍にのりながら、他の音と合わせる力に課題がある。 △歌唱において、音程や発声に課題をもつ児童が見られる。	○鑑賞の機会を増やして、音楽に対する感性をさらに育てていく。 △リズムに特化した曲を練習するとともに、合奏曲を練習する際も、リズムのみを取り出して練習する機会を増やす。 △録音を通して自分たちの声を客観的に聴く活動を取り入れるとともに、互いに聴きあう発表の場を増やすことで、発声のイメージを育てていく。
図工	○全体的に、造形活動に意欲的に取り組むことができる。 ○表したいことに合わせて用具を適切に使い、材料の特徴を生かす力が育まれている。 △既習事項を生かし、自分なりの表現方法を見付けて、表したいことを表す力をさらに付けたい。 △造形活動では、一人一人が自分の活動に自信を持ち、思うままに活動を進めていくことができる力をさらに育てていく。	○児童が興味をもつような題材設定を工夫し、自己表現する喜びや達成感を味わわせる。 ○様々な材料や道具に触れる機会をもち、形を変えたり組み合わせたりするよさや面白さを味わわせる。用具の適切な使い方について児童が理解しやすいように、ICT機器を使いながらポイントを明確にして指導する。また、一人一人の活動の様子を見て個別に支援する。 △一度使ったことのある道具や材料をすぐに使えるような状態にするなど、場の工夫をする。既習事項を生かしている児童の作品を紹介し、価値付けを行う。 △黒板に、授業の大まかな流れを書き、児童が確認できるようにする。児童に指示する内容を精選し、説明を短くすることで、児童自らが考える時間を十分に確保する。